

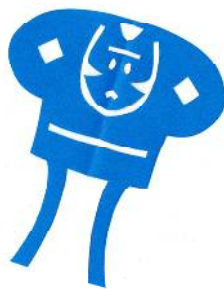
だいきく通信 第二十八号「冬の手」

いあこやつ

今年も残りわずかとなりました。去る十一月二十二日には、福島県沖で強い地震が起こり、津波も発生しました。五年前の東日本大震災の余震とのことでしたが、当時の記憶が生々しく蘇ったかたも多いのではないかと思います。私たちの暮らしは自然の豊かな恵みを享受する一方、厳しい自然災害とも隣り合わせであることを改めて思い知らされる出来事でした。

社報「だいきく通信」第二十八号をお届けします。今回の内容は、新年のご祈祷受付時間のご案内、催し物予告、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」などです。連載まんがには新しい仲間が登場。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



平成二十九年新年のご祈祷受付時間

一月 一日(日)	初子	午前零時～二時	午前六時～午後五時
二日(月)		午前八時～午後五時	
三日(火)		午前八時～午後五時	
四日(水)		午前八時～午後三時	
五日(木)		午前八時～正午	
六日(金)		午前八時～正午	
七日(土)		午前八時～午後三時	



平成29年の厄年一覧(数え年)			
	前 厄	本 厄	後 厄
男性の厄年	24 歳 平成 6 年生 いぬ	25 歳 平成 5 年生 とり	26 歳 平成 4 年生 さる
	41 歳 昭和 52 年生 へび	42 歳 昭和 51 年生 たつ	43 歳 昭和 50 年生 う(うさぎ)
	60 歳 昭和 33 年生 いぬ	61 歳 昭和 32 年生 とり	62 歳 昭和 31 年生 さる
女性の厄年	18 歳 平成 12 年生 たつ	19 歳 平成 11 年生 う(うさぎ)	20 歳 平成 10 年生 とら
	32 歳 昭和 61 年生 とら	33 歳 昭和 60 年生 うし	34 歳 昭和 59 年生 ね(ねずみ)
	36 歳 昭和 57 年生 いぬ	37 歳 昭和 56 年生 とり	38 歳 昭和 55 年生 さる

※近年は女性 61 歳の還暦も厄年とする場合もあります。

大國神社の今

《催し物予告》

・第六回だいきく落語会 開催決定！

平成二十九年五月六日（土）午後六時より

ご好評をいただいています落語会、次回も古今亭菊之丞師匠をお迎えして開催します。詳細は次号でお伝えします。



・第三回だいきくクラシックス

昨年、今年と開催し、こちらでもご好評をいただいております、だいきくクラシックス、次回も小林久美さん（東京都交響楽団）をお迎えしてヴァイオリン・リサイタルを開催する予定です。日時が決まり次第ご案内いたします。

《絵馬をリニューアルします》

新しいデザインの絵馬を準備中です。新年よりお出しします。

お宮あれこれ「酉」の話



来年、平成二十九年は酉年です。今回はこれにちなんで「酉」のお話をいたしましょう。

「酉」は「十二支」の一つです。「十二支」は、現代では年回りを表わすのに用いられていますが、もともとは古代中国の天文学の考え方でした。木星（歳星）が十二年で天を一周することから、年ごとの木星の位置を示すために天を十二分し、それぞれに次のように漢字一文字で名前をつけたものです。

子（し）・丑（ちゅう）・寅（いん）・卯（ぼう）・辰（しん）・巳（し）・午（ご）・未（び）・申（しん）・酉（ゆう）・戌（じゅつ）・亥（がい）

日本では、覚えやすいように十二の動物をあてて、次のように読むようになりました。

ね（鼠）・うし（牛）・とら（虎）・う（兎）・たつ（龍）・み（巳）・うま（馬）・ひつじ（羊）・さる（猿）・とり（鶏）・いぬ（犬）・い（猪）

これが暦に用いられて、十二年ごとに一巡する年まわりを示し、さらに十干と組み合わせで六十年で一巡する年あるいは六十日で一巡する日をあらわします。ほかに、時刻や季節、方角を示すのにも使われました。

さて、「とり年」にあてられている「酉」という漢字はもともと酒器の形をかたどった象形文字で、「酒」のことも表わしています。十二支は月をあらわすのにも用いられ、「酉」は十番目の月ということになりますが、ちょうど酒作りの季節にあたることから、この文字が用いられたのではないかともいわれます。



日本で「酉年」に当てられた動物は、上にも記しましたとお

り鶏です。鳥類の中でも最も身近な存在であるところから、鶏が選ばれたのだと考えられます。鶏は古代においては「かけ」と呼ばれていたそうです。鶏の鳴き声を「カケロ」と聞いたことによるもので、「万葉集」に次のような歌があります。

庭つ鳥可鶏（カケ）の垂尾（たりのを）の乱尾（みだれを）の長き心も思ほえぬかも（作者末詳 巻七・一四一三）

「鶏の垂れて乱れた尾のように長くのんびりした気持ちにはなれないことだ」

時代が下ると、「とり」といえば、特に鶏をさすようになりました。そして、鶏は朝早く鳴く習性があるため、古典文学の世界では、しばしば夜明けを告げて男女の仲を邪魔するものとして描かれました。次の歌がその一例です。

秋の夜の千夜を一夜になせりともことば残りてとりや鳴きなん（『伊勢物語』二二）

「たとえ長い秋の千夜を一夜にしたとしても、言葉は語りつくせないで夜明けを告げる鶏が鳴くことになってしまいうでしょう。」

百人一首に入っている次の歌も有名です。

夜をこめて鳥のそらねははかるとも世に相坂の関はゆるさじ（清少納言 『後拾遺和歌集』 雑二・九三九）

「夜がまだ明けないうちに、鶏の鳴き真似をして人をだまそうとしても、函谷関（かんこくかん）ならともかく、この逢坂の関は決して許しませんよ（だまそうとしても、決して逢いませんよ）。」

こちらは、斉の孟嘗君が秦の国を脱出しようとして夜中に函谷関に着き、供の食客が鶏の鳴きまねをして関門を開けさせ、無事通過したという古代中国の故事を踏まえた歌です。

ところで、神社の行事でも鳥にまつわるものがあります。

最もよく知られているものは「酉の市」でしょう。毎年十一月の酉の日に行なわれる鷺（おとり）神社の祭礼で、幸運や富を掻き寄せるといふ熊手が売り出され、大勢の人でにぎわいます。年の瀬の風物詩として知られています。十一月の最初の酉の日を、「二の酉」と呼び、以下「二の酉」「三の酉」といい、三の酉まである年は火事が多いという俗信があります。

もう一つ、菅原道真公をまつる太宰府天満宮などで新年に行なわれる神事のひとつに、「鷺替え」があります。これは、参詣者が木製の鷺を替え合うもので、昨年の災い・凶事を「うそ」にして今年の吉に取り替える意味があるとされます。

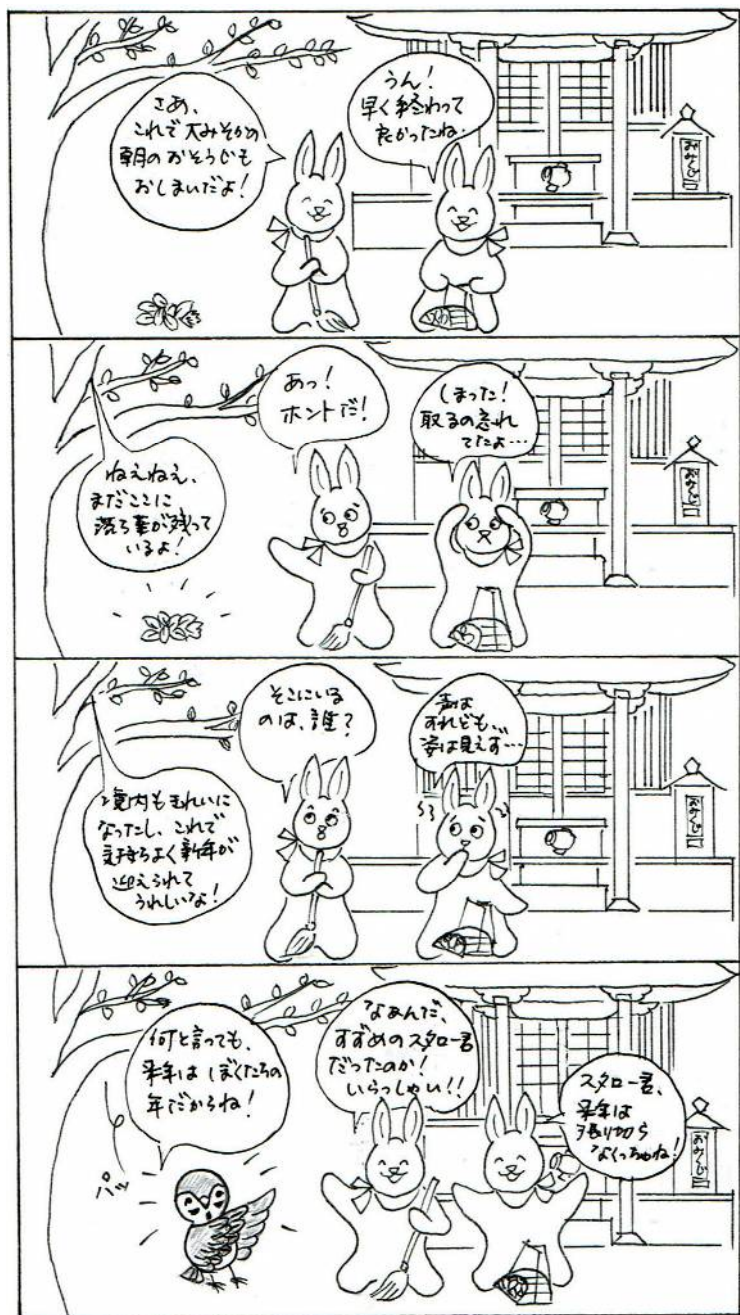
先に述べたとおり、十二支は季節を表わす際にも用いられており、「酉」は季節でいうと秋にあたりました。秋は収穫の季節と考えることもできるでしょう。来年がみなさまにとって豊かな収穫に恵まれる年でありますよう、お祈り申し上げます。



(連載まんが)

大吉うさぎ ～大みそかの朝に～

くま こまち 作



祭礼・祈禱などの案内

○次回甲子祭

平成二十九年二月六日(月) 午前五時～正午



○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは下記の電話番号に
お願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電
話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話
してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮
参りなど、随時祈禱を行なっております。祈禱日時については、

お電話・メールにてご相談ください。
〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

携帯 ○八〇―一九八七―八七二六

eメール daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいきく通信」第二十八号、いかがでしたか。次号「春の号」
は、平成二十九年二月六日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第二十八号 平成二十八年十二月八日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇―〇〇〇三 東京都豊島区駒込三―二―十一

<http://www.daikokujinja.org>

